

福井いろいろ

今回、長野、石川、福井、富山と北陸をグルッと回ってみたのだが、おそらくその中で、最も地味といわれてしまっても仕方ないのがおそらく福井である。ネットで地味な都道府県と検索すると、大体いつも上位にいる。「福井って何が有名か」と知人に聞いたら、「眼鏡」と返ってくるぐらいである。はっきり言って今回の北陸紀行で1番期待できなかつたところかもしれない。北陸新幹線が開通して、金沢が異常なまでに盛り上がりを見せている一方、隣の福井は今のところ全くその恩恵を頂けていないようである。私達も当初は金沢にて一泊する予定だったが、事前にネットでホテル



を探しても、某有名ビジネスホテルで素泊まり 2 万円が当たり前なのである。あまりにもバカバカしいということで、よりによって福井で 2 泊することとなった。福井の駅前にはこのような看板がある。新幹線の早期開業を促すものである。一刻も早く、新幹線を開通させようと必死な様である。

福井駅のすぐ近くのホテルを予約したのだが、駅前では目を疑うようなものを目にした。でっかい恐竜が 3 頭鳴き声をあげながら動いているのである。確かに、私も最初これを観た時は、興奮してしまっただが、特に何もない駅前にこんなものがあつたら景観にそぐわなくて絶対におかしい。どうしてこんなところに恐竜がいるのかというと、福井は国内随一の恐竜化石の産出地だからである。日本で発掘された恐竜化石の大部分を福井が占めてお

り、日本の恐竜研究の中心と自負しているぐらいである。以前に書かせて頂いた輪島の「まれ」ではないが、地方に行くと、何かある度にそれに乗っかるものなのである。それだけ町おこしに必死なのかもわからないが、それが見え見えであるという点が正直痛々しい。

何かないかと福井の街をぶらぶら歩いていたら、大きい堀があったので、公園か何かと思い、中に入ると、福井県庁の中に迷い込んだ。福井県庁のすぐとなりには福井の警察本部があるのだが、この建物が建っている場所というのが福井城跡なのである。城そのものは1669年に焼失しており、もう存在しないが、周囲の内堀は当時のそのままの状態である。県庁と警察本部の他に、城の建設に貢献したとされる結城秀康公の像や福井の県名の由来とされる「福の井」という井戸



もあった。そもそも福井城であるが、もともとは1575年に柴田勝家によって築城された柴田氏北ノ庄城があり、その後1601年に結城秀康によって結城氏北ノ庄城が築城された。現在見ることのできる福井城の遺構は後者の結城氏北ノ庄城のものであり、一般的に福井城というところらの事を指す。およそ6年の歳月をかけて完成された城下は都市としての福井をかたちづくり、今日の福井市発展の礎になったとまで言われている。ちなみに結城秀康はかの徳川家康の次男であり、「秀康」という名前は秀吉と家康から一文字ずつ取られて付けられたのだという。1624年に福井藩第3藩主の松平忠昌によって、「北ノ庄」の「北」という字が不吉とされることから、城域にある井戸、福の井から、「福居」（のちに福井）と改名されたようである。福井城は1669年に焼失し、幕府からの再建の許可が下りなかった

ことから、以後、再建されることはなかった。

街を歩いていると、立派な観音様が突如現れた。調べてみると、1945年の福井大空襲の際に、福井郵便局員20名以上が殉職し、1964年に犠牲者の家族ならびに職員らの有志によって、当時の電報電話局市外局中庭に観音像が建てられたそうであるが、平成7年、戦後50年という節目の年に恒久平和を願い、NTT福井支店が現在の場所に観音堂を安置したとのことである。この空襲による福井市街の損壊率は85%であり、死者数は1,500人以上にもなる。福井大空襲のわずか3年後、戦後復興間もない福井市を都市直下型地震が襲った。発生当時900人以上の戦後最多の死者数を出したとされるこの福井大震災はマグニチュード7.1の規模の大地震であり、東日本大震災、阪神・淡路大震災に次ぐ、戦後3番目の規模の震災といわれている。壊滅的な被害を受けたにもかかわらず、さらにそれに追い打ちを掛けるかのように集中豪雨が起き、流域面積2,930km²の九頭竜



福井空襲の殉職者を偲ぶ観音堂



1940年当時の福井郵便局 電話交換室



震災により崩壊した控天守台跡

川が決壊する。県の7割の面積を占めるこの川が決壊したことにより、福井は絶望的な状況に陥る。福井県庁の敷地内には控天守台跡の石垣の震災による崩壊の跡が残されている。1階が潰れて全壊した大和百貨店の写真は有名であるが、これも福井地震を象徴するビジュアルの1つである。

1945年に福井大空襲があり、1948年には福井大震災が起こる。その後すぐに集中豪雨による九頭竜川が決壊により、福井は再起不能寸前であったと言われたほどである。しかし、その度に福井は復興を遂げてきており、それを象徴して、「不死鳥」を市民憲章のシンボルにもしている。

自殺の名所としても名高い福井県坂井市にある東尋坊であるが、恥ずかしながら私はそんなにこの場所の事を知らなかった。直前に、自殺の名所であることを告げられ、どんどころなのかと楽しみにしていたら、観光客がたくさんいて、賑わっているような場所であった。こんなに人がいた



ら、自殺しようにもなかなか飛び込みにくい気もする。もしかしたら、こうして観光地化させることによってイメージの脱却を図ろうとしているのかもわからない。東尋坊の岸壁は海食によって、海岸の岩肌が削られたものであり、国の天然記念物ならびに名勝にも指定されているほどの場所である。東尋坊には柵のようなものがなく、観光客はそれぞれ好き好きに崖ギリギリを行ったり来たりして、楽しんでいた。命知らずな人間も結構多いものである。確かに、東尋坊はものすごくきれいな場所であり、撮ってきた写真を見ると我ながらにウットリ見とれてしまう。もともと東尋坊というのは福井県の平泉寺というところにいた僧侶の名前であったそうで、この僧侶というのが怪力を頼りに、民に対して悪事の限りをつくっていたというくせ者であったのだという。とうとうそんな彼も僧侶達の怒りを買って、酒で酔わされ、東尋坊から突き落とされてしまう。それ以来、毎年、東尋坊が落とされた4月5日前後には、海水が濁り、嵐が起きるのだという。果たして、東尋坊の怨念によるものなのだろうか。

夜食事をしようと福井駅周



辺をぶらぶらして散策していたのだが、地方では週末や祝日の夕方となるとどこも店が閉まっているのである。都内では、1番の稼ぎ時と言っても過言ではないので、まず信じられない光景である。困り果てながらもいろいろな所を行ったり来たりして歩いていると、突如、大きなボブ・マーリーの絵に出くわした。そこはガレリア元町アーケードと呼ばれる通りで、言ってしまうと商店街なのであるが、この通りの一角にあるガレリアポケットと呼ばれるスペースにその絵はあったのだが、あまりにも素晴らしすぎたので、調べてみると壁画師として多くの壁画を手掛けられた DAISUKE さんというパフォーマーの方によるものである様である。また隣にはマザーテレサの絵も描かれていて、こちらも絵の中に DAISUKE という字が確認できるので、同じ方によるものだと推測される。それにしても素晴らしい絵である。ネットで調べてみる限り、やはり、福井県外からもこの絵を見に来る人は多い様である。ただやはり駅前であるにもかかわらず福井の繁華街は静まり返っており、たいした収穫を得ることは出来なかった。

前述したように、地方にいけば何かある度にそれに乗っかるといった傾向がみられるものだが、それが恐竜であろうとテレビドラマであろうと、やっぱり町おこしのチャンス到来に変わりはないようで、みんな必死なようではある。どんなにパッとしないところでも確かに掘り下げると面白いことがワンサカ出てきたことは事実であったので、なにか良いきっかけがあって、地方がどんどん盛り上がりを見せてくれることを期待する。

ウェバー伊安